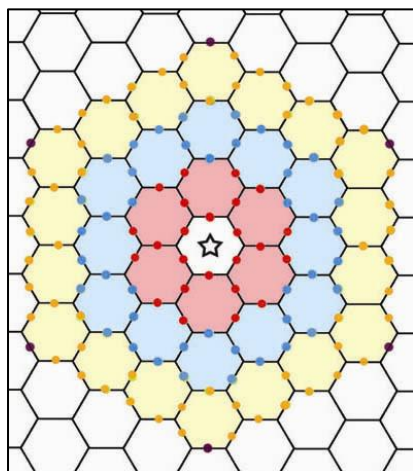


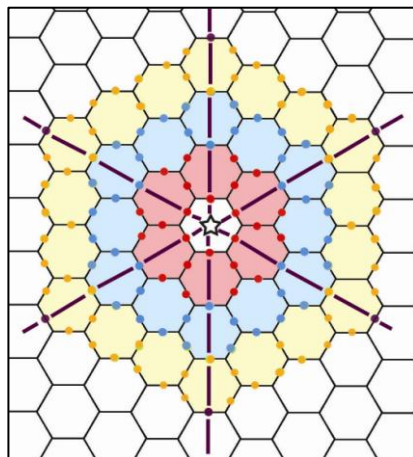
水平距離の数え方 (3. 1)

ヘクスから数える場合：以下のダイアグラムを参照。



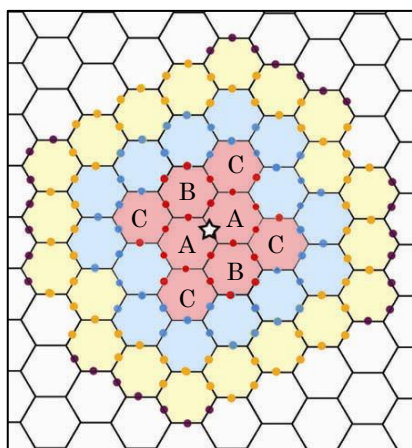
ヘクスからヘクスへ数える場合、自身のヘクスは数えず、対象のヘクスは数える。ゆえに、自身のいるヘクス(☆)は水平距離0である。ヘクスの色で見ると、赤=1、青=2、黄色=3となり、以下同様に数える。ヘクスサイドまでの距離は以下のように考える。①同じ距離のヘクスが共有しているヘクスサイドの距

離は、該当ヘクスの距離と等しい(つまり、距離1; 赤のヘクス同士が隣接しているヘクスサイドまでの距離は1である)。②異なる距離のヘクスが共有しているヘクスサイドまでの距離は、より**近い方**の距離となる(つまり、距離1; 赤のヘクスと距離2; 青のヘクスが隣接しているヘクスサイドまでの距離は1となる)。③例外として、ヘクス正目方向の6本のライン(下記ダイアグラム参照)が通過するヘクスサイドは『より遠い距離のヘクスと同じ距離』とみなす。ゆえに距離0; 白のヘクスのヘクスサイドは6本とも距離1となる。



③の『例外』をつくるラインを具体的に図示したもの。

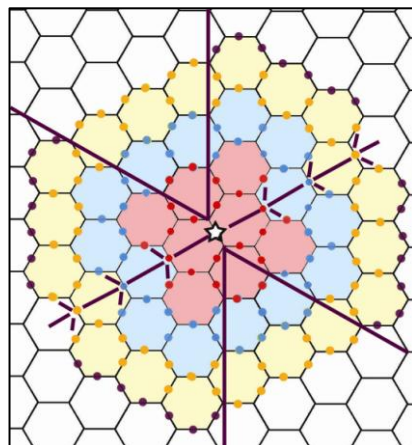
ヘクスサイドから数える場合：以下のダイアグラム参照。



ヘクスサイドから数える場合、自身の存在するヘクスサイドを構成する2ヘクス(A)と、自身の前後の2ヘクス(B)、およびA,Bの両方に接する4ヘクス(C)が距離1のヘクスとなる。距離2ヘクス以降は、それらに隣接するヘクスを普通に数えていく。また、それらのヘクスに属するヘクスサイドまでの距離は以下のよ

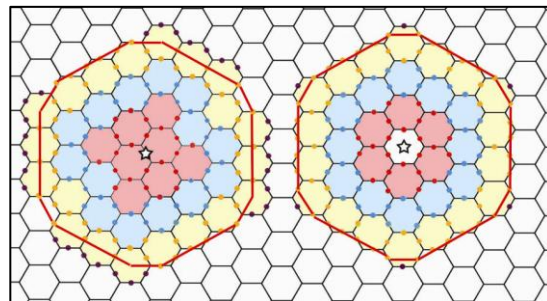
うに考える。①同じ距離のヘクス2つが共有するヘクスサイドは、その距離にある(自身のいるヘクスサイドは距離0である)。②異なる距離にあ

る2つのヘクスが共有するヘクスサイドは、より**遠い方**の距離にある。③例外として、アングル・オフ角30もしくは180度アークに入るヘクスサイドはより近い距離にある。また、自身の左右90度方向のヘクスサイドと、それにつながる2本のヘクスサイド(左右で計6本)も例外で、より近い距離にあるとみなす。



③の『例外』をつくるラインを具体的に図示したもの。

※捕捉：ヘクスサイドから数える際の図は、ヘクスから数える場合に比して大きく変形し、面積も拡張しているように見える。しかし、それはヘクスにだけ目を向けているからで、ヘクスサイド上の点を考えると両者はほぼ同じ形であることが分かる。距離3の最外縁の点を結んだ、以下のダイアグラムを参照されたい。



水平距離判定の例

F-4とMiG-17の距離は2。F-4とMiG-19の距離は3。
F-4とMiG-15の距離は3。F-4とMiG-21の距離は5。

F-8とMiG-17の距離は3。F-8とMiG-19の距離は1。
F-8とMiG-15の距離は2。F-8とMiG-21の距離は1。

MiG-21とMiG-15、MiG-19の距離はどちらも2。
MiG-21とMiG-17の距離は4。



アングル・オフ・アークの判定方法 (9. 2)

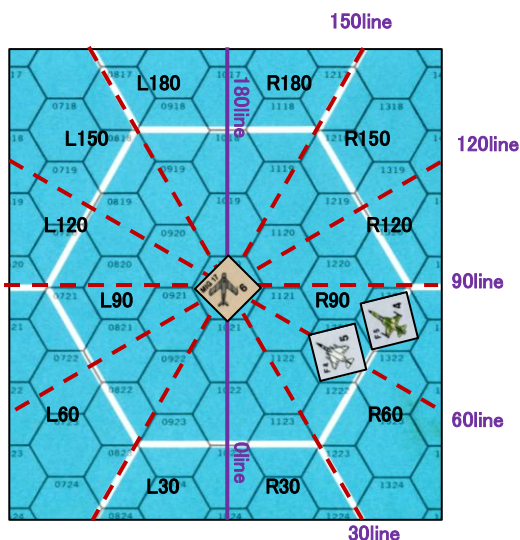
アングル・オフ・ライン：各アングル・オフ・アークの境界線は、180°ラインと 0°ラインと同じく、アングル・オフ・ラインを形成する。180°ラインを基準に、30 度刻みに 150°ライン、120°ライン、90°ライン、60°ライン、30°ライン、0°ラインとなる。

- ・アングル・オフ・ライン上で、機首方向がラインに合致している航空機は、相対的な速度に関わらず、そのラインの角度のアングル・オフ・アークにいる。180°ライン、もしくは 0°ラインで機首方向が合致している場合、アングル・オフ・アークではなく、その「ライン上」といふとみなす。
- ・アングル・オフ・ライン上で、機首方向がラインに合致していない場合、相対的な速度で最終的なアングル・オフ・アークを決定する。

①攻撃機(判定機)が優速の場合、攻撃機はその機首方向が向いているアングル・オフ・アークにいる。

②目標機(基準機)が優速の場合か、もしくは等速の場合、攻撃機は 2 つのアングル・オフ・アークのより**小さな角度**の側にいる。その際、攻撃機が 180°ライン上であれば、その機首方向のアングル・オフ・アーク (L180 もしくは R180) におり、0°ライン上であれば、その機首と反対方向のアングル・オフ・アーク (L30 もしくは R30) にいる。

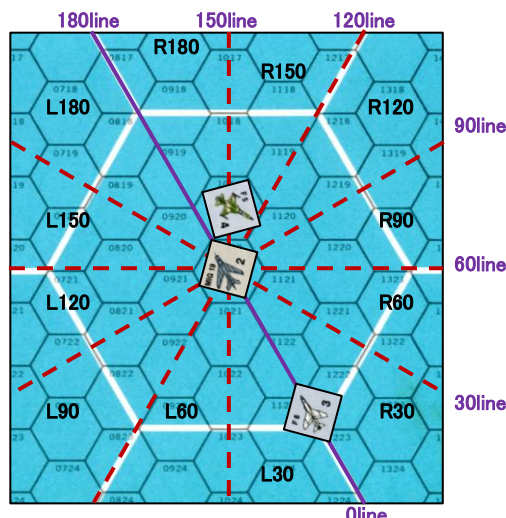
図 1 目標機がヘクス内に存在;その1



F-5(4):アングル・オフ・ライン上にいないので、MiGとの相対的な速度に関わらず、R90 のアングル・オフ・アークにいる。

F-4(5): 60° のアングル・オフ・ラインに機首方向が合致しているので、MiG との相対的な速度に関わらず、R60 のアングル・オフ・アークにいる。

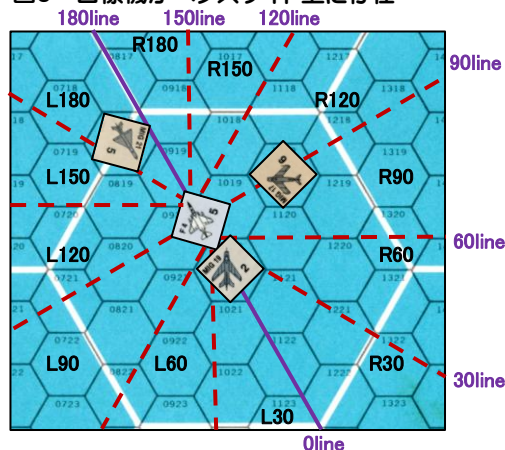
図2 目標機がヘクス内に存在;その2



F-5(4): 150° のアングル・オフ・ライン上にいるが、機首方向が合致していない。MiG より優速であっても(機首方向)、MiG の方が優速であっても(より小さい角度の方)R150 のアングル・オフ・アークにいる。

F-8(3):0° のラインに機首方向が合致しているので、MiG との相対速度に関わらず、0° ライン上(R30 でも L30 でもない)にいる。

図3 目標機がヘクスサイド上に存在



※目標機(基準機)がヘクスサイドにいる場合、150° および 30° のアングル・オフ・ライン上に航空機が存在することはありえない。

MiG-21(5):この機体は 150° のアングル・オフ・ライン上にいるのではなく、L180 のアングル・オフ・アーク内にいる。

MiG-17(6):90° のアングル・オフ・ライン上にいるが、機首方向が合致していない。MiG が優速であれば(機首方向の)R120 に、F-4 が優速かもしくは等速であれば(より小さい)R90 のアングル・オフ・アークにいる。

MiG-19(2):このヘクスは、0° ラインのヘクスである(30° ラインではない)。機首方向が合致していれば、0° ライン上にいるとみなされるが、この場合は合致していない。MiG が優速であれば(機首方向の)R30 に、F-4 が優速かもしくは等速であれば、(機首と反対方向の)L30 のアングル・オフ・アークにいる。

目標機(基準機)と攻撃機(対象機)を入れ替えた場合

図 1:F-4 から見て MiG-17 は 180° ラインにいる。どちらが優速であっても、MiG-17 の機首方向である R180 のアングル・オフ・アークにいる。

図 2:F-5 から見て、MiG-19 は 120° ラインにいる。どちらが優速であっても、R120 のアングル・オフ・アークにいる。MiG-19 が優速であれば機首方向で、F-5 が優速か等速ならより小さい角度のアングル・オフ・アークにいることになり、どちらも R120 だからである。

図 3:MiG-19 から見て、F-4 は 150° ラインにいる。ラインと F-4 の機首方向が合致しているので、相対的な速度に関わらず、ラインと同じ角度の L150 のアングル・オフ・アークにいる。